

野菜の需給・価格動向レポート(平成21年3月9日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	2月の価格動向					3月の見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額(上段:関東、下段:近畿)(速報値)			卸の見通し(上段:関東、東京青果株、下段:近畿:大果大阪青果株)		
		上旬	中旬	下旬		主産地の概況	
キャベツ	88.05	82	78	93	・入荷見込量:15,550t(98) ・主産地:愛知(69)千葉(14)、神奈川(13)	関東の産地では、春だいこんの作付け増加し、肥大も良好。一部に抽台の心配もある。	今年はず葉が前進したことにより出荷量は前年を下回るが、全体としては前年並みの入荷となり、価格は前年を下回る見込み。
	79.74	88	79	90	・入荷見込量:4,200t(100) ・主産地:愛知(40)、大阪(20)、兵庫(11)、和歌山(9)、三重(8)		気温の上昇に伴い出回りも増え始め入荷は前年を上回る見通しで価格安を予想。
ねぎ(関東:調製、関西:青ねぎ)	229.99	189	157	173	・入荷見込量:4,450t(100) ・主産地:千葉(50)、埼玉(30)、茨城(7)、輸入(4)	関東の産地では、腐敗病が一部発生しているが、順調な出荷が続いている。	各産地ともに順調で出回りが多いと予想。価格は前年を下回る見込み。
	450.51	336	274	275	・入荷見込量:260t(100) ・主産地:徳島(27)、大阪(21)、高知(13)、香川(12)		—
はくさい	64.34	61	53	62	・入荷見込量:6,750t(98) ・主産地:茨城(47)兵庫(34)、群馬(11)	関東の産地では、作柄は前年並であり、結球状態は良い。出荷量は前年並みの見込み。	今年はず葉産の春はくさいの遅れと兵庫産の出回りが少なく、入荷は前年を下回り、価格は前年をやや上回る見込み。
	76.33	71	69	73	・入荷見込量:3,200t(104) ・主産地:長崎(33)、熊本(16)、愛知(16)、大分(10)、福岡(9)兵庫(6)		出遅れ分のズレ込みと気温の緩みから入荷は前年並を見込み下押しを予想。
ほうれんそう	307.66	328	291	331	・入荷見込量:1,910t(100) ・主産地:埼玉(27)、茨城(24)、千葉(22)、群馬(19)	関東の産地では、干ばつの影響が懸念されるものの、生育は概ね順調に推移している。出荷量は寒暖により上下するが、減少傾向にあり、微減となる見込み。	今年、2月までの前進から出荷量は3月には若干前年を割り込むと予想。価格は前年を下回る見込み。
	341.25	335	246	281	・入荷見込量:570t(86) ・主産地:徳島(65)、福岡(18)		気温の緩みに伴い出回り回復見込み、入荷は前年を上回る見通しから価格安を予想。
レタス	259.83	181	155	169	・入荷見込量:8,480t(103) ・主産地:茨城(39)、静岡(15)、香川(14)、兵庫(7)、栃木(6)	関東の産地では、土壌水分も十分あり、活着は良好。根張りが十分心配な点はあるが、生育は概ね順調であり、品質・肥大も概ね順調である。概ね前年並みの出荷量が見込まれる。	3月上旬に茨城産の出荷ピークが来る見込み。定植の遅れから3月末が谷間となる。全体としては前年並み、価格は前年を下回る見込み。
	238.68	181	156	156	・入荷見込量:1,350t(93) ・主産地:兵庫(45)香川(16)徳島(15)茨城(14)		茨城産出遅れも気温の上昇に伴い出回り順調から潤沢な入荷を見込み下押しを予想。
たまねぎ	76.15	75	79	78	・入荷見込量:10,940t(95) ・主産地:北海道(79)、静岡(12)、輸入(3)	関東の産地では、出遅れ気味であった出荷も2月に入り回復し、3月は順調な出荷が見込まれる。	昨年と比べ、北海道産が少なめで静岡産の新ものが多い。新ものは大玉が多く、北海道産の不足を埋め、入荷は前年をやや上回り、価格は前年を下回る見込み。
		76	80	77	・入荷見込量:4,000t(99) ・主産地:北海道(62)、兵庫(10)、長崎(8)		九州産順調な出回りも北海道産前年作で前年を下回る入荷を見込み下押しを予想。
きゅうり	370.98	399	296	335	・入荷見込量:6,530t(100) ・主産地:千葉(22)、群馬(22)、埼玉(20)、茨城(14)、宮崎(10)	関東の産地では、日照不足の影響から活着不良の状態であり、軟弱徒長気味の成長である。また、日照不足だけでなく、寒さ等が影響し、肥大に遅れが見られる。出荷は前年並みを見込む。	2月の好天で作が進んでおり全体の出回りは多い見込み。西南暖地は関西中心に出荷を行う動き。各産地とも成り疲れから量的に前年を下回り、価格は前年をやや下回る見込み。
	350.33	377	270	319	・入荷見込量:1,400t(106) ・主産地:宮崎(47)、高知(21)、徳島(19)、愛媛(7)		天候も回復に向かうも作型の切り替りで前半やや少なめ、後半増加見込み下押しを予想。
トマト	332.60	408	370	377	・入荷見込量:6,070t(100) ・主産地:熊本(26)、栃木(19)、愛知(11)、千葉(7)、群馬(6)、福岡(6)、茨城(6)、埼玉(5)	関東の産地では、12月から1月にかけての寒暖の影響により、促成・冬春ともに産地間でばらつきがみられる。全般的に着色は1週間程度の遅れ。果実の肥大及び果形は良好で、生育は前年並みで順調に推移している。	全国的に作付けが減少傾向であるが、生育が順調で前年を上回る入荷となり、価格は前年を下回る見込み。
	311.06	369	357	359	・入荷見込量:1,050t(92) ・主産地:熊本(42)、福岡(19)、愛知(12)		冷え込みの緩みと日照不足の解消から出回りは徐々に回復に向かい、入荷は前年には及ばないものの前年並を見込み、価格は低迷した前年を上回る予想。
なす	389.03	422	336	339	・入荷見込量:3,400t(103) ・主産地:高知(54)福岡(22)、佐賀(6)	四国の産地では、気温が前年よりも高く推移しているため、出荷量は前年並みから前年をやや上回る見込み。	1月以降前年を上回る気温で生産は順調。入荷は前年を上回り価格は前年より安い見込み。
	397.74	407	337	334	・入荷見込量:600t(100) ・主産地:高知(28)、熊本(20)、岡山(16)、福岡(14)、大阪(9)		天候の回復と気温の上昇から出回り増え下押しを予想。
ピーマン	501.13	823	700	641	・入荷見込量:1,820t(100) ・主産地:茨城(39)、宮崎(31)、高知(19)、鹿児島(10)	関東の産地では、生育は順調であり、品質・肥大ともに良好。出荷も前年どおりとなる見込み。	宮崎産の作付け減、茨城産の定植遅れから入荷は前年を下回り、価格は前年を下回る見込み。
	467.19	452	653	594	・入荷見込量:350t(101) ・主産地:宮崎(50)、高知(29)、鹿児島(13)、和歌山(6)		気温の上昇と日照不足の解消から出回りも次第に増え始め、前年を上回る入荷を見込み下押しを予想。
だいこん	83.19	71	64	66	・入荷見込量:12,240t(101) ・主産地:神奈川(58)、千葉(40)	関東の産地では、春だいこんの作付けは増加。一部で抽台の心配が見られるが、肥大は良好。出荷は前年並みを見込む。	出荷の前進から3月が谷間になり、月変わりから荷動きが活発化してこよう。入荷は前年並み、価格は前年を下回る見込み。
	84.70	69	57	62	・入荷見込量:3,100t(96) ・主産地:長崎(28)、徳島(22)、鹿児島(15)、香川(10)、岐阜(7)		低温や降雨の影響残るも気温の上昇に伴い回復見込み入荷は前年並を見込む。価格は秋冬物から春物に切り替わり前年を上回る予想。
にんじん	96.24	114	102	105	・入荷見込量:6,970t(102) ・主産地:千葉(54)徳島(22)、埼玉(10)	関東の産地では、出荷は11月上旬から始まっており、一部で青首、しみ等が見られる。年内遅れていた品物が出荷されており、今後も前年を上回る出荷量となる。	今年はず葉産が早めで価格は前年を下回る見込み、入荷は千葉が徳島をカバーする形で前年をやや上回る見込み。
	104.73	99	94	101	・入荷見込量:2,000t(103) ・主産地:鹿児島(52)、徳島(26)愛知(10)、長崎(6)		鹿児島が回復し、入荷は前年を上回る見通し。愛知の切り上がり早まり価格は前月よりやや上向くも前年の高値に及ばず価格安を予想。

種類	2月の価格動向				3月の見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額(上段:関東、下段:近畿)(速報値)	上旬	中旬	下旬	卸の見通し(上段:関東、東京青果類、下段:近畿:大果大阪青果類)		
いも	さといも	217.95	209	214	211	・入荷見込量:680t(101) ・主産地:埼玉(45)、千葉(30)、輸入(12)	関東の産地では、出荷量は安定しているが、一部にひび、青芽、二次成長など品質のバラツキが見られる。今後の出荷量も昨年より多い見込み。	今年の在庫は前年並みで、3月中旬から出荷も増え、価格は前年よりも高い見込み。
		219.65	234	198	210	—	—	前月に引き続き順調な入荷を見込み価格は前年の高値には及ばず安値を予想。
ばれいしょ	ばれいしょ	88.17	100	102	103	・入荷見込量:9,490t(95) ・主産地:北海道(70)、鹿児島(25)	北海道では、生産量は前年並みであるが、小玉化傾向の影響により前年を下回る見込み。	今年はひねの芽が出るのが早く、新ものにシフトする見込み。入荷は前年を下回り、価格は前年より安い見込み。
		101	100	102	102	・入荷見込量:3,300t(89) ・主産地:北海道(53)、鹿児島(39)	—	鹿児島産順調に出てくる見通しも北海道産が少なく入荷は前年並を見込み価格高を予想。

1) 平均価格は、過去9年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。
2) 旬別平均販売価額の青は保証基準額を上回るもの。赤色は下回るもの(消費税は除く)。

1) 入荷見込量は関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
2) 主産地は東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
3) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。

1) 「卸の見通し」の内容は、東京青果株式会社「野菜展望」、大果大阪青果株式会社「虹」をもとに機構が編集したものである。
2) その後の気象条件の変化等により変動があり得る。

2 野菜の需要動向

家計調査でみると、1月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、4,276g、対前年比98%となっているが、購入金額については、1,548円、対前年比104%となっている。
また、小売物価統計によると、2月のはくさいの小売価格は過去5年平均比95%、だいこんは同82%となっている。

1 生鮮野菜の購入量及び金額

(1人当たりの購入量、金額)

年	平成21年		平成20年		過去5年平均	
	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)
1月	4,276	1,548	4,341	1,479	3,981	1,524
2月			4,471	1,582	4,218	1,566
3月			4,763	1,735	4,527	1,692
4月			4,896	1,786	4,667	1,775
5月			5,020	1,876	5,068	1,876
6月			5,026	1,878	4,955	1,860
7月			4,446	1,673	4,391	1,681
8月			4,392	1,619	4,257	1,648
9月			4,934	1,763	4,678	1,730
10月			5,437	1,829	5,110	1,814
11月			5,036	1,601	4,832	1,576
12月			5,145	1,869	5,041	1,779

資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

2 主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移

(単位:円/kg)

月	はくさい		だいこん	
	平成21年	過去5年平均	平成21年	過去5年平均
1月	120	135	125	146
2月	136	142	126	153
3月		191		154
4月		236		165
5月		206		156
6月		201		153
7月		199		153
8月		227		167
9月		231		165
10月		200		184
11月		162		146
12月		122		122

注1:過去5カ年は平成16~20年
注2:2月の値は、2月中旬の速報値

資料:総務省統計局「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

中国からの野菜の輸入量は、平成19年には141万トンであったものが、20年には、87%の114万トンとなっており、さらに21年1月では対前年同期比91%の9.6万トンとなっている。
2月については、植物防疫検査統計によると、たまねぎについては前年同期比64%、にんじん同90%、ねぎ同88%となっている。

野菜等の輸入数量の推移について

(単位:トン、%)

区分	平成18年	平成19年	平成20年	平成20年			平成21年		
				前年比	1月	1月	前年比	1月	1月
生鮮野菜	956,167	719,467	597,171	75	50,912	47,362	93		
加工野菜	1,805,327	1,786,948	1,660,662	98	143,759	136,253	95		
野菜輸入量合計	2,787,104	2,506,415	2,058,401	90	194,671	183,615	94		
中国産野菜合計	1,621,939	1,413,583	1,147,126	87	106,059	96,078	91		
中国産シェア	58	56	56		54	52			

資料:財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向

(単位:トン、%)

品目	輸入先	(A)2008.2	(B)2009.2	(B)/(A)
		たまねぎ 合計		15,756
	中国	11,049	7,148	64.7
	米国	3,049	2,026	66.4
にんじん 合計		1,541	1,638	106.3
	中国	1,297	1,171	90.3
	NZ	-	22	-
ねぎ 合計		2,916	1,962	67.3
	中国	1,915	1,691	88.3

資料:農林水産省「植物防疫検査統計」(2009.2は3月第1週現在で速報値である。)

4 トピック

第二回国産野菜の生産・利用拡大優良事業者表彰の概要

1 趣旨
この表彰は、野菜需要全体の約半分を占める加工・業務用の輸入が増え、野菜の自給率が年々低下している状況の下、加工・業務用国産野菜の生産拡大に向け、産地と実需者及び流通業者の連携による安定供給への取組を優良事例として表彰し、これを広く紹介することにより、国産野菜の生産拡大を進め、野菜の自給率向上に寄与することを目的として実施する。
2 表彰の対象
産地サイドにおいては、実需者等のニーズに即して野菜を安定供給し、また実需者等サイドにおいては、国産野菜の積極的な利用増進を図り、安定的・継続的に加工・業務用野菜の生産を行うことが出来る産地を育成するなど、産地と実需者等の連携した取組を対象とし、取組の構成員は、生産関係者(農協、農業生産法人等)並びに実需者(加工業者、カット業者、外食業者、中食業者等)及び流通業者となる。
なお、表彰時に加工・業務用野菜生産拡大セミナーも同時開催(右欄参照)。
3 受賞者の概要等
農林大臣賞2(右欄参照)、生産局長賞12、機構理事長賞11となっている。

○農林水産大臣賞:2グループ

賞	グループ名	構成員
農林水産大臣賞	JAみい・倉敷青果荷受組合 蔬菜部・倉敷青果荷受組合 洗浄野菜プロジェクト	JAみい野菜部会協議会(福岡県久留米市) 倉敷青果荷受組合 洗浄野菜プロジェクト(岡山県倉敷市) 倉敷青果荷受組合 蔬菜部(岡山県倉敷市)
農林水産大臣賞	全農いばらき西レタス契約取引グループ	全農いばらき西VFS・JA常総ひかり石下地区契約レタス部会(茨城県結城郡) 株式会社 サラダクラブ(東京都府中市) MCプロデュース株式会社(埼玉県さいたま市)

○生産局長賞:12グループ

○独立行政法人農畜産業振興機構理事長賞:11グループ

参考HP http://alic.lin.go.jp/y-keiyaku/yagyomu03_000004.html

加工・業務用野菜生産拡大シンポジウム

開催日 平成21年3月18日(水)

開催場所 農林水産省7階講堂 〒100-8950 千代田区霞が関1-2-1

◇第1部 国産野菜の生産・利用拡大優良事業者表彰式典 10:00~12:00

・挨拶
・受賞者表彰(農林水産大臣賞2、生産局長賞12、(独)農畜産業振興機構理事長賞11)
・審査講評 審査委員長 藤島 廣二(東京農業大学国際食料情報学部教授)
・農林水産大臣賞受賞者の取組発表
※主催 農林水産省、(独)農畜産業振興機構
後援 全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、(社)日本農業法人協会(社)全国青果卸売市場協会、(社)日本施設園芸協会、野菜ビジネス協議会、青果物カット事業協議会

◇第2部 加工・業務用野菜生産拡大セミナー 13:30~17:00

・主催者挨拶(社)日本施設園芸協会 会長 木田 滋樹
・加工・業務用野菜をめぐる状況 農林水産省生産局生産流通課課長 渡辺 隆夫
・基調講演
テーマ「LLPを活用した加工・業務用野菜の供給の取組」
講師:ベジポート有限責任事業組合 職務執行者 岡本 弘正
・話題提供
① テーマ「産地と実需者の信頼性構築の取組事例」
発表者:丸西産業株式会社 代表取締役社長 山下 大輔
② テーマ「産地と実需者が連携しての製品開発の事例」
発表者:茨城中央園芸農業協同組合 専務 藤田 正三
③ テーマ「契約農家の利益を確保する契約取引の事例」
発表者:農業法人 有田農産有限公司 取締役社長 谷川 洋造

・会場との意見交換
司会:JA富里市 常務理事 仲野 隆三

※主催 農林水産省、(社)日本施設園芸協会
後援 (独)農畜産業振興機構

暖房ほどこお鍋でほかほか (鍋ほか推進プロジェクト) (<http://jpan.jp/?nabehoka>)